

土砂災害について

土砂災害とは

こんな変化に注意！ 土砂災害の前ぶれ(前兆現象)

身のまわりでこんな現象が起これば、すぐに近所の人や市役所へ知らせ、安全な場所に避難しましょう。特に大雨が降っているとき、降ったあとは要注意です。

がけ崩れ(急傾斜地の崩壊) / 急な斜面が崩れる

がけ崩れの前ぶれ

がけ崩れの前ぶれ

- がけから小石がパラパラ落ちてくる。
- 樹木がゆれたり、かたむいたりする。
- 斜面から水がわき出る。
- 斜面にひび割れができる。

避難所への移動が困難な時は、がけから離れた部屋や2階などに避難しよう。

土石流 / 山から崩れた土や石が水といっしょになって、ものすごい勢いで流れ下ってくる

土石流の前ぶれ

土石流の前ぶれ

- 川や沢の中でゴロゴロという音がしたり、火花が見えたりする。
- 川や沢の流れがにごり、生木の木が流れてくる。
- 山鳴りがする、異常なおいがする、地鳴りがする。
- 雨がふり続けているのに川や沢の水が減る。

土石流から逃げる時は、川から離れたなるべく高いところにあがる。

地すべり / やや傾斜のゆるい斜面が、広い範囲にわたってかたまりのまま動く

地すべり前ぶれ

地すべり前ぶれ

- 池の水がにごったり、減ったりする。
- 山の樹木がザワザワとさわぐ。木の裂ける音や木の根が切れる音がする。地鳴りや山鳴りがする。
- わき水がふえる。
- 地面にひび割れや段差ができる。

ここにあげたのは前兆現象の一例です。このほかにも「いつもと何か違う」と感じたら、市役所、近所の人に知らせて安全な場所に避難してください。

風水害について

土砂災害警戒情報とは

大雨警戒(土砂災害)の発表後、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに、市町村長の避難指示の発令判断や住民の自主避難の判断を支援するよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。危険な場所からの避難が必要な警戒レベル4に相当します。

(気象庁HPより)

大雨の場合に気象庁が発表する防災気象情報

大雨の数日～約1日前	早期注意情報(警報級の可能性) 警報・注意報に先立ち発表	警戒レベル1
大雨の半日～数時間前	大雨注意報 警報になる可能性がある場合はその旨予告	警戒レベル2
大雨の数時間～2時間程度前	大雨警報 土砂災害や浸水害が発生するおそれがあるときに発表	警戒レベル3
	土砂災害警戒情報 土砂災害の危険度がさらに高まった場合に発表	警戒レベル4
数十年に一度の大雨	大雨特別警報 災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況の場合に発表	警戒レベル5

※発表はこの順番でない場合もあります。

雨の強さと降り方

1時間雨量(mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内(木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10以上～20未満	やや強い雨	ザーザーと降る。	地面からの跳ね返りで足元がぬれる。	雨の音で話し声が良く聞き取れない。	地面一面に水たまりができる。	
20以上～30未満	強い雨	どしゃ降り。	傘をさしていてもぬれる。			ワイパーを速くしても見づらい。
30以上～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。		寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。	道路が川のようになる。	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる。(ハイドロプレーニング現象)
50以上～80未満	非常に激しい雨	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる。		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。	車の運転は危険。
80以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。				

(注1)大雨によって災害が起こるおそれのあるときは大雨注意報や洪水注意報を、重大な災害が起こるおそれのあるときは大雨警報や洪水警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは大雨特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。
(注2)数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したときには記録的短時間大雨情報を発表します。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。なお、情報の基準は地域によって異なります。

風の強さと吹き方

平均風速(およその時速)	風の強さ(予報用語)	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	建造物	およその瞬間風速
10～15m/s ～約50km/h	やや強い風	一般道路の自動車	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。電線が揺れ始める。	樋(とい)が揺れ始める。	20m/s
15～20m/s ～約70km/h	強い風	高速道路の自動車	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業は極めて危険。	電線が鳴り始める。看板やタン板が外れ始める。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。雨戸やシャッターが揺れる。	30m/s
20～25m/s ～約90km/h	非常に強い風		何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。看板が落下・飛散する。道路標識が傾く。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。	40m/s
25～30m/s ～約110km/h					固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。養生の不十分な仮設足場が崩落する。	50m/s
30～35m/s ～約125km/h						60m/s
35～40m/s ～約140km/h	猛烈な風	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。住家で倒壊するものがある。鉄骨構造物で変形するものがある。	
40m/s～ 約140km/h～						

(注1)強風によって災害が起こるおそれのあるときは強風注意報を、暴風によって重大な災害が発生するおそれのあるときは暴風警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは暴風特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。
(注2)平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍程度になることが多いですが、大気の状態が不安定な場合等は3倍以上になることがあります。
(注3)この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。

1. 風速は地形や周りの建物などに影響されますので、その場所での風速は近くにある観測所の値と大きく異なる場合があります。
2. 風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。
3. 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。今後、表現など表状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

出典元:「雨と風の階級表」(平成29年3月 気象庁発行)